

目的 国際社会・地域社会で活躍する次世代グローバルリーダーの育成

人材像

未来志向
(Future)

多様性
(Diversity)

コラボレーション
(Collaboration)

国際・地域感覚
(Glocalism)

社会貢献
(Volunteerism)

伝統を継承しつつ、**大胆に変革した令和の新事業**として再スタート

時代の要請

- 地球規模課題解決に向けた重要性の高まり
- グローバル化の進展、多様性の深化
- 情報通信技術利用の一般化
- 感染症等のリスクの高まり
- ローカルからグローバルにわたる社会課題を解決する実践力
- 国民へのアカウンタビリティの必要性の高まり

意欲の高い青年の参加

- **仕事・学業との両立**をしながら実践力を向上させる魅力ある事業の構築
- 青年に響く広報コンテンツの作成、YouTubeやSNS等を活用した**戦略的な広報**
- 次世代リーダーを目指す者を総合評価で選考、**多様性重視枠の設定**
- **経済団体等**への広報強化

効果的なプログラム

- 「**共同生活**」と「**実践の場**」を組み合わせた**新たな実践型プログラム**を構築
- オンラインも活用した**効果的なチームビルディング**
- **地方公共団体との連携**、国内外のOB/OGのほか、地域住民等の**多様な者を巻き込んだ事業**を展開

グローバルNWの効果的活用による事後活動

- 事業、世代を超えた横断的な**グローバルなネットワークデータベース**の構築を検討
- OB/OGの**活動状況を収集・見える化**し、その効果を対外的に発信
- 同窓会組織と連携した**グローバルなネットワーク**の交流の活性化、発信

令和の新プログラム（イメージ）

- Step 1 意欲の高い青年の参加に向けたプログラムの魅力の向上・広報の強化・選考の充実・多様性重視枠の創設
- Step 2 デジタルのメリットを最大限活用し、仕事・学業との両立を可能にするオンライン交流の充実
- Step 3 感染症等のリスクを低減させつつ、「共同生活」と「実践の場」を組み合わせた実践型プログラム
- Step 4 各地域のOB/OGのネットワークとの協力強化、事後活動の見える化

Step1 募集・選考

募集・選考

- ① 青年に響くプログラム・広報コンテンツ・手法の充実
- ② 各種団体への広報強化
- ③ 次世代リーダーとしての活躍意欲を重視
- ④ 多様性重視枠の創設
- ⑤ 事後の継続的な事業への参画

Step2 関係構築

オンライン交流

- ① 有識者による講義・グループディスカッション
- ② 文化交流・アクティビティ
- ③ 自由な交流時間の確保
- ④ 地域実践活動プランニング

Step3 交流と実践

共同生活、地域実践

- ① 共同生活
- ② 地域訪問（▲地域程度）
- ③ 地域実践活動（◆地域）
- ④ 表敬

Step4 事後活動

ネットワーク強化・見える化

- ① 世代を超えた交流機会の創出
- ② 既参加青年のプログラムへの参画
- ③ 地方公共団体との連携強化
- ④ 事後活動の見える化

- 【参加国数】 日本及び複数国（○カ国程度）
- 【参加者数】 日本青年○名程度、海外青年○名程度（○人×○カ国程度）
- 【対象年齢】 18歳～30歳の青年（多様性重視枠では、40歳まで対象を拡大）
- 【交流期間】 合計●カ月程度（社会人等向けの短期プログラムの検討）